

心と心をつなぎ合おう

— 異世代交流を通し、豊かな心を育む —

常滑市立常滑幼稚園

1 実践のねらい

- 地域の人たちとの触れ合いを通して、地域への興味・関心を深め、地域に開かれた園づくりに努める。
- 異世代交流をする中で、見守られ愛されていることを実感し、人への信頼感や思いやりの心を育む。

2 実践内容

(1) 地域のお年寄りとの木工遊び

木工の得意な地域のお年寄りと一緒に木のおもちゃ作りを行った。子どもたちは、釘打ちがうれしくてお年寄りから「金槌はここを持って、こうやって打つんだよ」と優しく教えてもらいながら、自分のおもちゃを完成させた。

日頃はゲーム機で遊ぶことが多くなってきた子どもたちであるが、木のぬくもりを感じながら自分で作ったおもちゃで何度も繰り返し遊ぶ姿が見られた。



<釘打ちっておもしろいね>

(2) 地域の伝統行事「常滑まつり」に触れる

本園は近年、新興住宅街からの通園児が多くなり、古くから地域に伝わる「常滑まつり」に馴染みが薄くなってきている子が増えてきた。

祭り前日に、地域の人たちが笛や太鼓の祭囃子で園を訪れ、触れ合うことができた。間近で迫力のある太鼓の音やお囃子を聞いたり、実際に太鼓を叩かせてもらったりすることができ、祭りへの興味・関心が高まった。

後日「ぼくね、山車をせーら、せーらって引っ張ったんだよ」と得意げに話す姿があった。



<明日はお祭りだよ、うれしいな>

(3) 保護者による手づくり誕生会

誕生児の保護者が集まり、いろいろなアイデアや特技を出し合っ出て出し物をつくり上げている。子どもたちは、普段見たことのない母親の姿を真剣に見たり、一緒に楽しく遊んだりすることができた。母親同士の新しいつながりも生まれている。



<お母さんが変身したよ>

(4) 「夕涼み会」での地域の人たちとの交流

夏の夕方に、園を開放して「ゆうすずみかい」を開催した。ポスターを貼ったり、招待状を出したりして地域の人たちや卒園した小学生も招いた。

テーマを「絵本の世界へでかけよう」とし、各部屋を絵本の世界に見立て、主人公になりきって遊べるようにしたり、園庭にクイズコーナーを設けたりした。親子で身近な絵本の世界に浸ったり、近隣の人たちと一緒にゲームを楽しんだりして触れ合う場となった。



〈たくさんの方が来てくれたね〉

(5) おじいちゃん、おばあちゃんと遊ぶ会

近年、核家族化が進み、本園もその傾向にある。そこで、日頃離れている祖父母と触れ合う機会をつくった。一緒に身近な材料を使って簡単なおもちゃ作りをしたり、そのおもちゃで遊んだりすることができた。自分のために真剣に作ってくれたり、一緒に遊んでくれたりする祖父母の姿に、「おじいちゃん、かっこいい」と喜びの声が聞かれ、子どもたちは自分が愛されていることを実感していた。



〈おじいちゃん、かっこいい〉

(6) 講師を招き、保護者向けの講演会を開催

毎日の送り迎えや、園の行事への積極的な参加を通し、保護者の子育てへの関心の高さを感じると同時に、子育てへの不安や戸惑いも見られる。

そこで、カウンセラーの榊原はるみ先生を講師に迎え、「子どもの自己肯定感を育てる」というテーマで子育てについて話を聞く機会を設けた。

グループワークではロールプレイを行い、実際に母親役、子ども役、第三者の役になり、子どもの話をじっくり聞いたり、褒めて伸ばす難しさと大切さを実感したりすることができた。



〈「いいとこさがし」しましょう〉

3 実践の成果や課題

- ・ 地域の人たちとの交流を通して、昔ながらの遊びのぬくもりを感じたり、伝統行事に興味をもつことができたりして、子どもたちにとっては新鮮な体験であった。その中で、地域の多くの人たちに見守られている安心感や人への信頼感も育まれた。また、保護者にとっても地域への関心を深める機会となった。今後も地域に開かれた園づくりを心がけていきたい。
- ・ 異世代交流の場で、小学生やお年寄りに優しく接してもらったり、一緒に遊んでもらったりする経験は、人間関係を豊かにし、社会性や協調性を育むこととなった。
- ・ 保護者自身が自己肯定感をもち、楽しんで子育てできることが、心と心をつなぎ、絆を育む基礎となると再確認することができた。

今後も保護者同士や異世代などの様々な交流の場をつくったり、保護者や地域に向けて、分かりやすく情報発信したりしていく必要があると感じた。